

オスラー病における 鼻血治療のパラダイ ムシフト

サージセルがもたらすQOLの劇的改善と
医療経済への多大な貢献



本資料が提示する3つの重要なファクト



高い止血効果と QOL改善

- 初期止血成功率**80%超**
- 患者の精神的安定に直結



巨大な 医療費削減効果

- 救急搬送や入院を未然に回避
- 全国規模で**数億円**の抑制ポテンシャル



標準化と ガイドラインの急務

- **命に関わる**医療アクセスの格差
- 処方ルールの一統化が必須

知られざる危機：「たかが鼻血」ではない過酷な現実と医療からの孤立

“夜間の鼻血で救急拒否されることが多いです。”

鼻血による重度の貧血から心不全を発症し、働けなくなった。”

“救急搬送されサージセルを渡したが、医師から無視されガーゼパッキング治療後に『二度と来ないで』と言われ絶望的な気持ちになった。”

頻発する大量出血、慢性的な貧血、そして「救急拒否」という命に関わるペインが日常的に発生している。

サージセルがもたらす圧倒的な止血効果と簡便性



高い止血効果

難治性の鼻血に対する確実なアプローチ



安全性

副作用が少なく、患者への身体的負担を最小限に



除去不要

吸収性があるため、後日の再出血リスクを伴うガーゼ抜去の苦痛がない



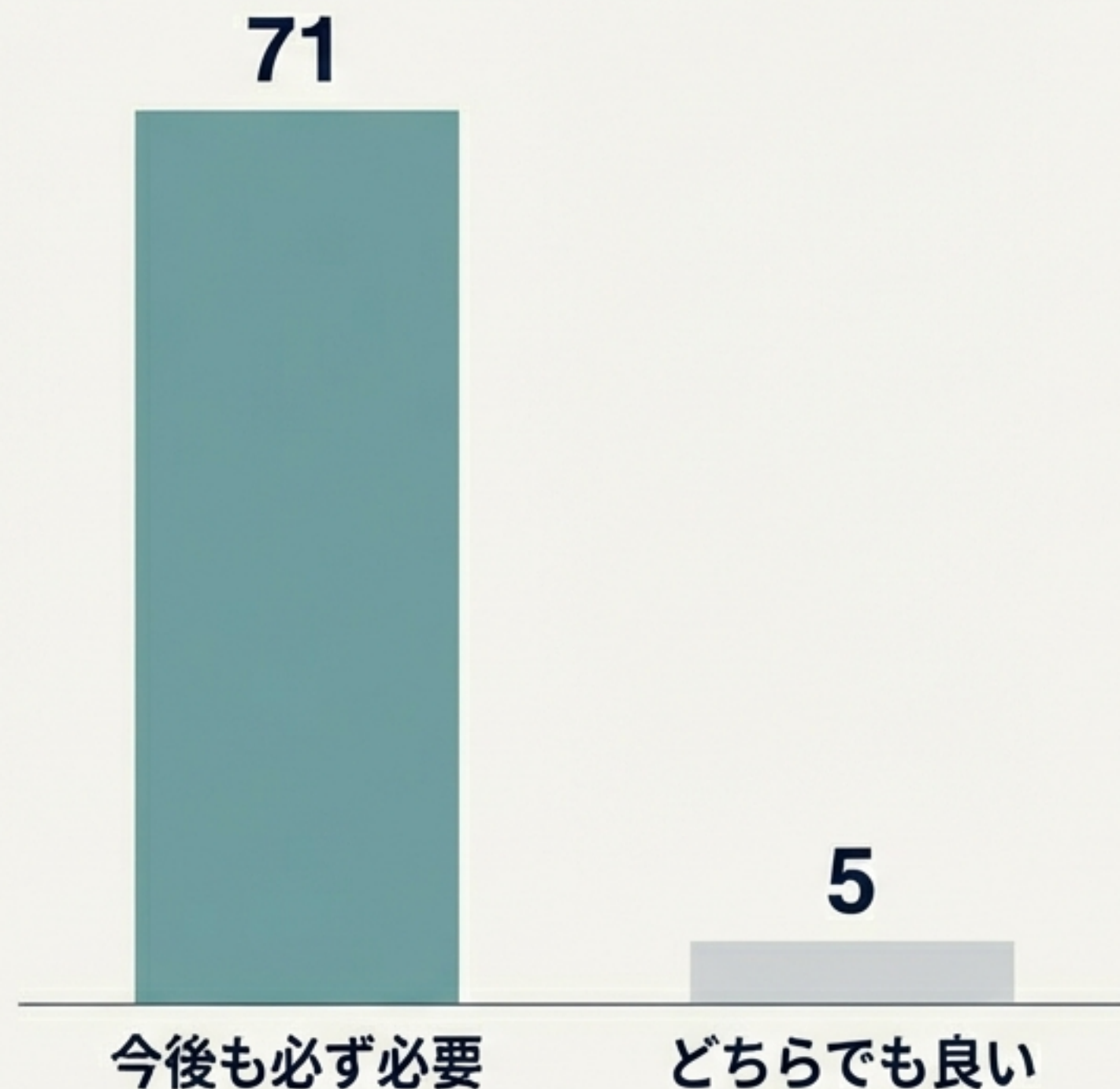
操作の簡便さ

迅速な処置が可能であり、緊急時にも極めて有効

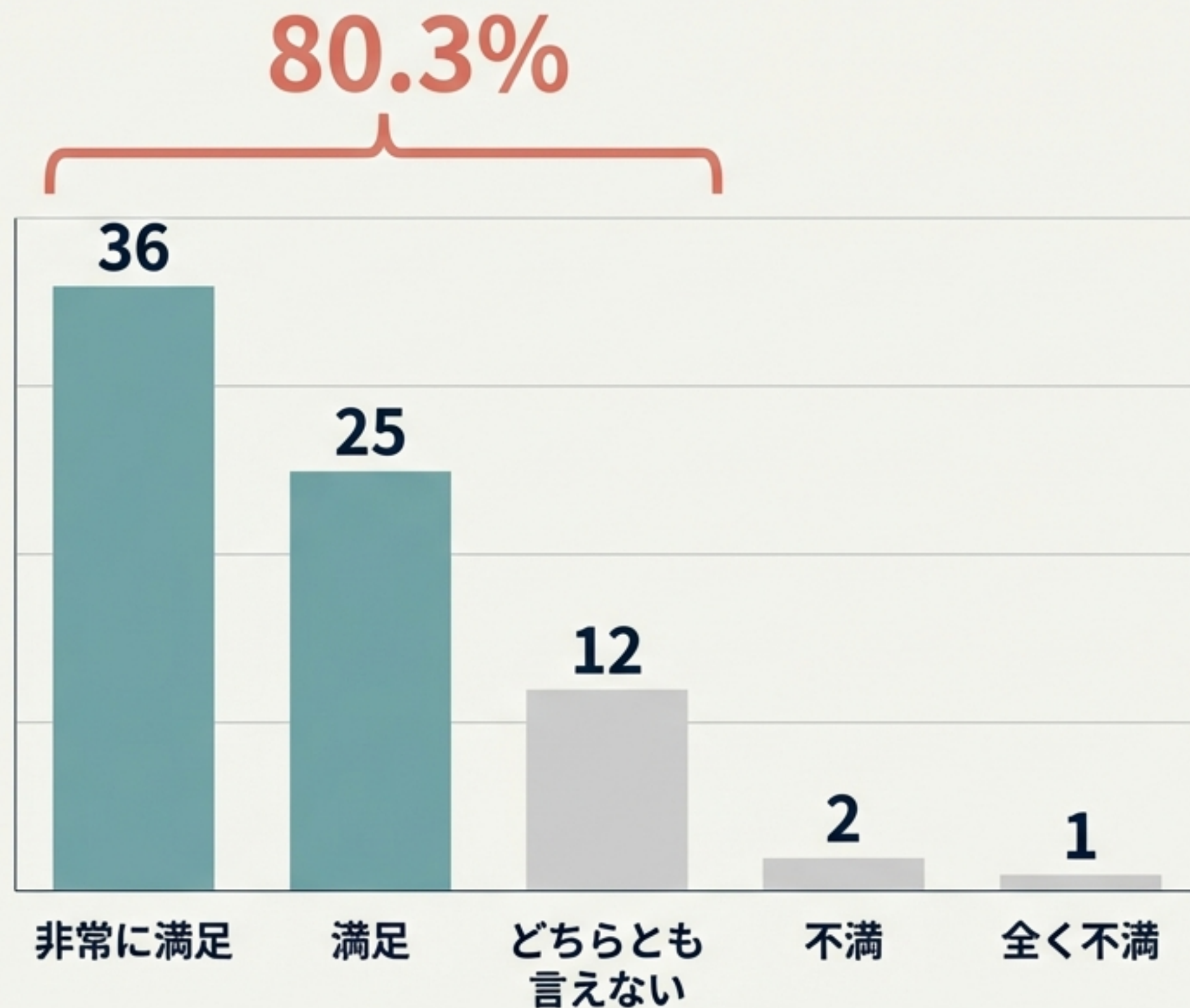
9割以上の患者が「今後も必ず必要」と断言する現実

93.4%

回答者76名中、実に71名がサージセルを「今後も必ず必要」と回答。単なる治療薬の枠を超え、生存と安心に直結する必須アイテムと認識されている。



80.3%の患者が実感する初期止血成功への高い満足度



「非常に満足（36名）」と「満足（25名）」を合わせ、約80.3%が高い止血効果を実感。臨床現場における圧倒的な実用性と信頼性を証明している。

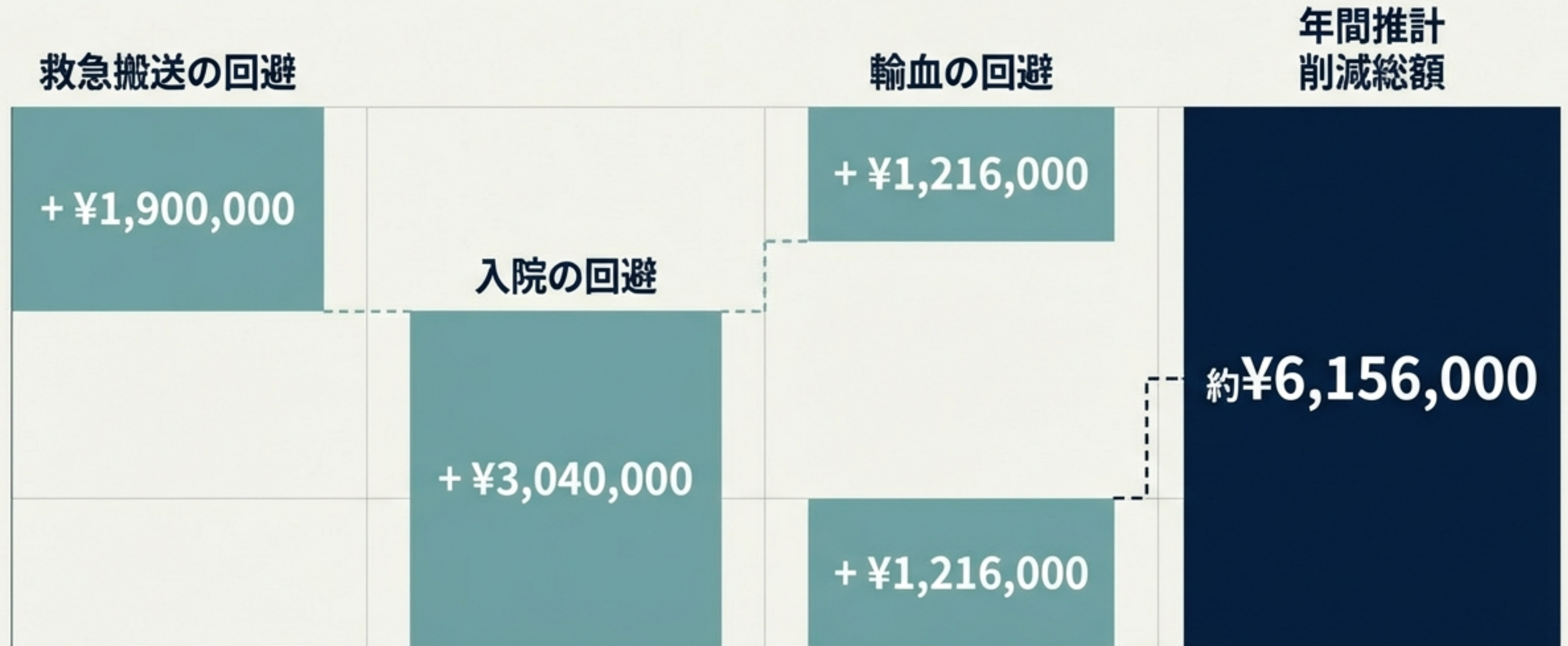
単なる止血剤を超え、 患者の「日常」と「尊厳」を取り戻す



“外出時に持ち歩く事で、外出先で大量出血しても何とかなるだろうという安心感で、精神的かなり楽になりました。”

精神的・身体的QOLの劇的な改善。いつでも出血に対応できる「お守り」としての機能が、患者の社会復帰を強力に後押ししている。

わずか76名のモデルで 年間約615万円の医療費を削減



※回答者76名ベースの仮定モデル

全国展開がもたらす約3.6億円の 巨大な医療費抑制ポテンシャル



76名のモデル
(約615万円)
BIZ UDPGothic

約3.6億円/年

6,156,000円 × 30回 × 2人世帯
= 推計総額 369,360,000円

サージセルの積極的な処方、単なるコスト増ではない。
国レベルの強力な「医療費抑制策」である。

命を脅かす深刻な「医療アクセスの格差」と治療のバラつき

✓ アクセス可能な患者

! アクセスできない患者

“理由も告げられず急に使用できなくなった”

“同じ病院でも担当してくれる耳鼻科医によって処置の仕方が異なります”

“オスラーの鼻血止血について知らない先生がまだまだ多い”

病院や医師の裁量によって治療法が分断され、この格差が直接的に患者の命とQOLを脅かしている現状。

急務となる「処方標準化」と ガイドラインの普及

1



2



3



患者会作成ガイドブ ックの普及

アンケート回答者全員が必要
と答えたガイドブックの臨床
現場への導入。

処方ルールの一統化

病院内、および耳鼻咽喉科医の
間でのサージセル使用基準の
標準化と属人的な治療の排除。

救急・休日夜間診療 体制のアップデート

救急拒否をなくすための、初
期対応マニュアルの早急な整
備。

サージセルの標準使用が、患者の尊厳と医療インフラの両方を救う

オスラー病の鼻血治療において、サージセルは単なる選択肢の一つではありません。それは、圧倒的なデータが証明する「患者の命綱」であり、同時に逼迫する救急医療システムを助け、数億円規模の医療費を抑制する「社会的なソリューション」です。今こそ、全てのオスラー病患者に等しくこの希望を届けるための「標準化」に向けて、歩みを進める時です。